

2025 年度シンポジウム「付着生物と海洋プラスチックの関わり」

主催：日本付着生物学会

開催場所：東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市）講堂

開催日時：2025 年 10 月 10 日（金）

参加費：学会員 2,000 円、非会員 5,000 円、会員学生 無料、非会員学生 3,000 円

懇親会：「はま」 会費 5,000 円（要事前申し込み、当日徴収予定）

申込方法：URL または QR コードから申し込み。



<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc-DvTTYHveE3yrc48ySdC6eHcIYU8ZndlYwOeYHfLUVtiHw/viewform?pli=1>

概要

近年、海洋環境の異変が注目されているが、その中でも海洋プラスチックゴミ汚染は深刻な問題としてクローズアップされている。海洋の付着生物は、海中に存在するプラスチックを付着基盤として活用できる、付着後は様々な海洋生物の餌として活用されることから、海中のプラスチックゴミ問題とも密接に関係している。また、濾過食者としてマイクロプラスチックを取り込む可能性も高く、生物影響の指標生物として捉えることも可能である。

本シンポジウムでは、海洋プラスチックゴミ汚染の現状、および、付着生物・底生生物が海洋プラスチックゴミ汚染に関する事例を整理する。また、これらが生態や生物にどのような影響を与えるのかについて議論し、海洋プラスチック問題を考える機会としたい。

海洋利用・開発に携わる者、防汚技術開発及び関連基礎研究に携わる研究者の有意義な情報交換の場にしたいとも考えている。

基調講演

・東海 正（東京海洋大）

「海底プラスチックごみの実態と微細化過程－付着生物の影響に着目して」

・西部 裕一郎（東大 AORI）

「海洋マイクロプラスチックの分布と動態」

一般講演

(1) 底生生物からのプラスチック検出技術の開発

・小川 展弘（東大 AORI） 「ウニにおけるプラスチック摂餌痕の形態学的解析の試み」

・山下 麗（東大 AORI） 「 μ FT-IR を用いた底生生物中のマイクロプラスチックの分析方法」

・浅野 祥大（千歳科技大） 「生物付着面のマイクロプラスチック分析手法の検討」

(2) 底生生物による微細化の実態

・早川 淳（東大 AORI） 「ウニ類の摂餌による海底プラスチックごみの微細化について」

・野方 靖行（電中研） 「生物の付着と剥離に伴うプラスチックごみの動態」

・中野 碧（三重大） 「植食性貝類の摂餌行動に伴うプラスチック微細化」

(3) プラスチックごみによる生物・生態影響

・苦野 哲史（WWF ジャパン） 「漁業系プラスチックごみ（ゴーストギア）の発生背景・影響実態について」

・井上 広滋（AORI） 「イガイ類や魚類へのマイクロプラスチックの取込と排出」

・石井 俊一（JAMSTEC） 「海洋におけるプラスチックの微生物分解プロセスの解明」

・河村 知彦（東京大学） 総括